

平成28年5月31日

松阪市議会
大平 勇 議長

海住恒幸

研修報告

平成28年5月29日、名古屋市内で開催された次の研修に参加したのでご報告します。

研修会の名称 市民派議員アドバンスコース・2016年度第1回政策研究会
開催日時 平成28年5月29日午前9時30分～午後4時30分
会場 愛知県女性総合センター・ウィルあいち
(名古屋市東区・地下鉄名城線「市役所前」下車)

記

事例研究を扱う午前の部と、テーマ研究の午後の部で構成されています。

午前中は事前に参加議員一人ひとりに事例として提出を求められていた課題「わたしが一般質問で取り上げて実現した政策」について1人ずつ発表。各人のレポートをもとに講師の意見を聴いた。わたしが取り上げたのは、平成19年(2007年)9月の一般質問「公共施設のライフサイクルコスト」でした。現在では、建設費(イニシアルコスト)だけではなく、維持管理費(ランニングコスト)も想定して公共施設の建設の是非やありようを評価するのが当たり前となりましたが、わたしが一般質問した9年前の時点ではライフサイクルコストという考え方は知られていませんでした。そこで、一般質問の方法としては、松阪市民文化会館やコミュニティ文化センター、市役所、市産業振興センターなど10施設ほどの建設費や、建設後かかった維持管理費や修繕費、改修費などの合計額、さらに、その後10年以内に予定されている修繕や改修等について担当課の協力を得てパネルを作成し一覧化をし、執行部ともデータを共有の資料として議論のたたき台としました。

この結果、(1)箱もの建設のラッシュから30年たち、設備の更新、修復の時期に入っているが、どの程度のコストが発生しようとしているか、把握できているか(2)新たな公共施設をつくる時、将来いくらコストがかかるか試算し、市民に説明責任を果たしていく考えはあるか(3)施設白書づくりの検討を一一という質問に対し、(1)合併で同じ目的の施設が重複して存在しており、統廃合や有効活用の検討が必要(2)新たな施設を計画する場合、事業の

事前評価をする仕組みづくりの必要性を感じている（3）今後採り入れていく必要がある一と前向きな答弁が得られました。肝心なのは、これらの答弁が実行されるかどうかですが、一般質問から5年後の平成24年度に施設仕分けが行われたのを皮切りに、市内640施設の「施設カルテ」の作成に至りました。講師から発せられる質問に答えました。

午後は、テーマ研究ということで、『保育園に落ちた！』に市民派議員としてどう関わるか」がテーマでした。中日新聞で連載記事「保育漂流」や「もう限界 保育現場の今」を手がけた同紙生活部記者の稲熊美樹氏が、取材を踏まえ保育園の現場で起きている状況や行政の取り組み姿勢について報告。このあと、参加議員の自治体間比較を行った。

以上